スポットライト
～地域で頑張る人たち～
No.12

おもちゃを「治（なお）」して みんなの笑顔をつくる

かのやおもちゃ病院

使っている大切なおもちゃが壊れたら、皆さんはどうしますか。「かのやおもちゃ病院」は、子どもたちの大切な宝物であるおもちゃを修理し、「もの」の大切さを伝える活動を行うシニア世代のボランティアグループです。

かのやおもちゃ病院は、鹿児島県社会福祉協議会が主催した「おもちゃドクター養成講座」の受講者を中心に平成21年に結成しました。現在のメンバーは16人。毎月1回「病院」を開設するほか、各種イベント等にも出向き、持ち込まれたおもちゃを「おもちゃドクター」が修理します。

かのやおもちゃ病院は、毎月第１土曜日の9:30～11:30にリナシティかのやで開かれる。工具を手におもちゃを修理するのは「ドクター」たち。

取材日にも、おもちゃ病院には多くの家族が訪れた。おもちゃが元通り動くのを確認すると、子どもにも大人にも笑顔があふれる。

多いのは知育玩具やラジコンなど。その日に直るものから1か月以上預かって修理するものまで様々です。コンピュータゲーム機やコンセントにプラグを挿すものなどでなければ、受診できます。

これまで直したおもちゃの数は、1，500台以上。受け付けたおもちゃごとに「カルテ」がつくられ、その特徴や壊れた症状、施した修理方法や写真などをこと細かに記録しています。

修理方法やおもちゃ本来の動きがわからない場合は、それを全国のおもちゃ病院などと情報交換し調べることもあるそうです。

かのやおもちゃ病院副院長の安田修（おさむ）さんは、こう語ります。「おもちゃを修理することで、子どもたちが笑顔になり、その笑顔を見た大人も笑顔になる。それがおもちゃ病院の一番のやりがいです」

「おもちゃの修理には常に勉強が必要です。メンバーも募集中」と語る安田さん(左)

編集後記

鹿屋農業高校の農場に初めて足を踏み入れました。その広大な敷地に驚くとともに、生徒の礼儀正しさと、ひたむきに頑張る姿を見て、ただただ感心するばかりでした。多くの人に農高生の頑張りを知ってほしいです！（前田）

37年ぶりに宇宙探査機・ボイジャー1号のエンジンが動いたことに、ロマンを禁じ得ません。40年以上前の技術の堅牢さや確実さ、そして40年以上運用し続けるNASAの皆さんの頭脳・努力・運用体制などに頭が下がります。（原田）

温かい食事と笑顔に出会えるこども食堂。誰かと一緒に食卓を囲むことは、当たり前のようで、中々できていないことかもしれません。誰でも参加・協力できるこども食堂には、地域での新たな可能性があると感じました。（田嶋）

✂キリトリ線

お便り＆メッセージ

ご協力ありがとうございました。

ご応募の際にご記入いただきました個人情報は、抽選・賞品引換券の発送・アンケート統計以外の目的で使用することはございません。